



1/10 電動ラジオコントロールカーで行われている、世界唯一の F-1 選手権である F1RCGP (Formula 1 Radio control Car Grand Prix) の運営組織 F1RCGPA の代表であり、自身もドライバーとして世界で活躍されている北澤秀郎さんをお迎えし、2011 年シーズンについてお話をうかがいました。

Formula は 2011 年より F1RCGP のシーズンスポンサーをしています。

## 第一回 2011 年を振り返って

**Formula (以下 F)** 今シーズンの F1RCGP が終わりました。総括を聞かせてください。

**北澤 (以下 K)** たいへんでした。やはり震災ですね。順調に伸びていた参加者数の伸びが震災でガクッと落ちてしまい、ただごとでないと感じました。最終的には参加者ももどってきましたが、気をもむことが多くてたいへんでした。

**F** 運営面や競技の質の面ではどうでしたか？

**K** レース自体はかなりレベルアップしたと思います。3 年目となり、いいレースを見せられたといっています。

**F** F1 スケールクラスが見ていて特におもしろいなと思いました。

**K** F1 スケールクラスは今年から始めたクラスです。F1RCGP を始めた一年目二年目は、お客さんがどれくらい入るかがなにより心配でした。できるだけ多くの人に参加してほしいだったので、比較的オープンなレギュレーションにしました。一方で、このスケールクラスは結構しぼりがあって、スケール重視というのと、必ず一回ピットに入ってタイヤを左右交換することというルールがあります。ただ、日本では主催者側の要望が強いレースというのはあ

まり好まれないのか参加者が集まらず、参加者が少ないながら地道にずっとやっていたという状況でした。ですので、11月に行われた最終戦の香港では、たくさんの方が参加してくれたのでよかったですと思いました。

- F ピットインがあるとレースの行方がわからなくなるので、それがよりレースをおもしろくしているなどと思います。
- K ピットをやっている本当の狙いは別にあるんです。ラジコンをやっている人にはシャイな人が多くて、一人で来て一人で帰る人がけっこう多いんですよ。なので、せっかく同じ趣味で集まっている人が同じ場所に集う場なので、右や左の人に「ちょっとピットやってくれよ」って声をかけて横のつながりを増やす。当初はそういうコミュニケーション作りのきっかけを狙ったレース企画だったんです。実際に、今年の一戦目、二戦目の時はグランプリクラスと F1 クラスのドライバーの間には垣根がありました。それで、グランプリクラスの人にはピットをやらせて、一方で、一人で来てもピットもちゃんとしてもらえるように手配をしているから大丈夫だよ、と F1 クラスの参加者を募って。その結果、F1 スケールクラスの方も、今まで話せなかった人と話せるようになって。狙い通りになってよかったなど思っています。
- F われわれとの接点の部分についても少しお話を伺いたいと思います。われわれが北澤さんと一緒にやらせていただこうと思ったのは、すごくオープンだと思ったからです。例えば F1RCGP のレギュレーションとして、イコールコンディションで戦うだとか、一般の人からわかりやすいものにしたとか、全国を転々として一回のレースだけで決めないこととか。この一年をやってみて、北澤さんから見た我々の魅力は具体的にありましたか？
- K 実際にラジコンをやっている方自身がフォーミュラという会社に興味を持って、転職をちょうど考えているからサービスを受けてみよう、という話は少ないかなと思っています。ただ、いろんなギャラリーがいる中で、少しでも目につけばいいかなと思っています。魅力というと、発想がすごくユニークなので、そこかと思っています。
- F そのユニークな発想は、やはり我々がラジコン業界の外にいるから言えると思われませんか？
- K そうですね。
- F ラジコンへのスポンサーを決めた昨年は、全日本選手権に出られていたチー

ムヨコモさんの全車のボディーにロゴを貼っていただきました。当時もいろんな提案をさせていただいたのですが、業界の事情や条件面などからか、実際には先に進まない状況となりました。一方で、当時 F1RCGP にも注目していたので、二年目は F1RCGP でやってみようと思つた経緯があります。北澤さんは、われわれの提案をユニークな発想と受け取られ、まずは一回話を聞き、ご自身で咀嚼（そしゃく）されて、その上でこの部分を採用してみよう、こういう風にやってみよう、と動かれる。我々にとってはすごく建設的な関係を築けるお相手だと感じていて、すごくありがたく思っています。これだけのレベルのレースを、日本全国そして海外でもやられていて、人の目に触れないのはもったいない、触れないといけないと正直思います。業界外だからこそその提案をさせていただいて、一般の人にもっと受け入れやすいものに変化させる一助となれたらと思います。そうなれば、シリーズの価値がさらに高くなると思いますし、主催者としての北澤さんのステータスもあがることに繋がりますので。我々もどんどん提案していき、これからもオープンな関係が築けたらと思っています。

- K 名前もすごくラッキーだったなと思いますね。同じ F1 と名がつくので。
- F 以前にもお話ししたとおり、われわれは公式という意味で使っていますが、一般的に Formula といえば連想するのは F1 ですよね。われわれからみてもラッキーだったと思います。

この続き「F1RCGP という新たな試み - 前編-」は1月10日に掲載されます。

## 2011 Formula Inc. all rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.  
本站内图文请勿随意转载 / 本站内圖文請勿隨意轉載  
게시물 무단 전재 복사 배포 등을 금지합니다  
Gebrauchen die Bilder ohne Genehmigung verboten.